

【目 次】

はじめに

3

第一章 神仏習合の原点

13

——互為灌頂——

第二章 大神神社、室生、長谷の神仏習合の源流

20

一 共通の地盤

20

二 室生寺

21

三 長谷寺

23

四 大神神社若宮の十一面観音

24

五 薬師考

25

六 少彦名、大己貴の薬師との習合

29

七 天武天皇の御願	31
八 神仏習合の源流となる聖地	32

第三章 三輪の神と関わるインドの神々	35
--------------------	----

第四章 三輪の教相のもとになる記紀の神々	42
----------------------	----

一 造化の神々	42
二 イザナキ・イザナミの創造	47
三 イザナミの死	49
四 イザナキの創造	51
五 八岐大蛇 <small>やまたのをろち</small> の退治	53
六 皇祖神と地神五代の神	55

第五章 大神神社の御祭神	60
--------------	----

一 大物主の神	60
二 国家神道時代の大神神社の御祭神	65

第六章 三輪の神道灌頂	70
-------------	----

一 密教の灌頂の概説	70
二 三輪流神道の灌頂の概説	73
三 『三輪流神祇灌頂』の次第	74
四 鳥居の祓い	75
五 入壇	79
六 投華壇と神の社	80
七 正覚壇	88
八 麗気壇	92
九 岩戸の大事	94
十 第二重の灌頂	95
十一 第三重の灌頂	100

第七章 三輪流神道灌頂伝授録	104
----------------	-----

第八章 三輪流神道の神々と理趣経マンダラ

——『神道灌頂清軌』を中心として——

一 概略	108
二 理趣経マンダラの発展	113
三 『金剛王軌』	115
四 『瑜祇経』	119
五 『理趣釈』とその教理の展開	123
六 愛染法の教理	125
七 神道マンダラ	128
八 むすび	131

第九章 神道敷マンダラの神々

一 概説	135
二 内重の神々及び内重と関わる外重の神々	136
三 京都近郊の神々	163

第十章 方位の神々

——泰山府君祭文のマンダラを中心として——

四 地方の霊山と関わる神々	166
五 古代豪族の神々	176
一 概説	181
二 マンダラを構成する主要尊	184
三 薬師十二神将と十二支	196
四 易法	197
五 五帝五龍	201
六 密教行法としての護方の法	202
七 地鎮法と心地の鎮静	205
八 むすび	206

第十一章 生活に生きる神道

——神道大工十八通——

一 はじめに	207
--------	-----

二	『神道大工十八通大事印信許』	208
三	三式伝書	224
四	むすび	225

第十二章 羽黒山入峰修行

一	山伏修験の行	229
二	羽黒山の秋の入峰修行	231
三	山伏の行を終って	254

第十三章 まつり

一	羽黒山の松例祭	256
二	西大寺の裸まつり	261
三	日吉山王祭	265
四	住吉大社の御田植まつり	269

第十四章 神仏分離—廃仏毀釈

一	明治維新	278
---	------	-----

二	神仏分離の強制	282
三	維新後の教育政策	285
四	神仏分離の底流	287
五	国家宗教の功罪	289
六	宗教とは何か	292

おわりに	296
------	-----

索引	i
----	---